

# 2 児童生徒の学習環境の充実について

## 長野県の状況

教職員 1 人当たり月平均時間外勤務（4・5月調査）

	H26	R1
小学校	62時間30分	54時間27分
中学校	75時間24分	62時間40分
全体	67時間32分	57時間37分

目標の45時間には程遠い

「学校閉庁日の設定」  
実施率100%(R1)

### ● 教員配置の充実と働き方改革の推進

・ 中学 3 年までの30人規模学級や学校における働き方改革を国に先駆けて実施

取組

#### ○ 教員配置の充実

・ 中 3 まで30人規模学級を完全実施、小学校英語専科教員40人配置

#### ○ 学校における働き方改革の推進

・ H29に基本方針を策定し、県・市町村・P T A が連携して働き方改革を推進  
・ スクールサポートスタッフ121人、部活動指導員122人配置

### ● 先端技術の活用による教育の質の向上

・ 新学習指導要領実施に向け、ICTを基盤とした先端技術を効果的に活用する学習環境を整備

取組

#### ○ 県立高校のICT環境整備

・ R 2 までに全県立高校の電子黒板、タブレット端末の整備を完了  
・ 先端技術を活用した「個別最適化」×「S T E A M 化」による学びの質の向上

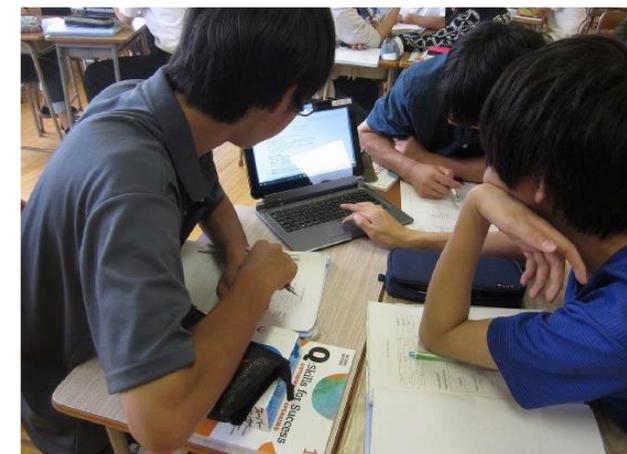
### ● Society5.0時代に向けた人材育成

・ 高校が地域・産業界・大学等と協働して、地域課題解決等の探究的な学びの実現を目指す

取組

#### ○ 高校改革モデル校の設置

・ 文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定校」3校  
・ 「未来の学校」実践校6校を県で設置し、上記指定校との相乗効果を図る



## 課題

- **少人数教育を維持しつつ、新学習指導要領実施に向け小学校英語教員の計画的配置が必要**  
また、教員の負担軽減のため、**スクールサポートスタッフや部活動指導員の増員が必要**
- **生徒一人一台のタブレットPC環境を前提とした高速かつ大容量のネットワーク環境が不可欠**  
また、「個別最適化」×「STEAM化」による探究学習のため、より**柔軟なカリキュラムマネジメントが必要**
- **Society5.0時代に向けた人材育成のため、高校教育における海外研修等の充実、地域等と連携する仕組みの構築が必要**

**教員の負担軽減効果**  
スクールサポートスタッフ  
約800時間/年・人  
部活動指導員  
約200時間/年・人

## 提案・要望

### 1 教職員定数の改善と教員の負担軽減に必要な予算の確保

- ・ 必要となる小学校英語専科教員の配置や小学校2年生以降の30人規模学級編制に係る教職員定数の改善を図ること
- ・ 希望するすべての学校にスクールサポートスタッフや部活動指導員の配置が可能となるよう予算額を十分に確保すること

### 2 ネットワーク基盤整備に対する財政支援と探究的な学びの拡充に向けた制度改善

- ・ Society5.0時代の学びに必要な一人一台PC環境の実現に向けたネットワーク基盤整備に対する財政支援を行うこと
- ・ ICTを活用した先端的な学習を前提とした授業時数の弾力的な運用など、学校教育法省令と告示の見直しを行うこと

### 3 Society5.0時代に向けた人材育成に対する財政支援

- ・ Society5.0時代に必要な思考力・判断力・表現力等の資質・能力の育成に向け、地域課題解決等の探究的な学びの推進を図るため、高校生の海外研修の推進や、大学及び産業界等と連携したコンソーシアムの構築に必要な財政支援を行うこと